

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校
校長 徳島 都昭

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。また、学力向上のためには学校と家庭の連携が必要です。改めて、お子さんの学力について考える機会と捉えていただけると幸いです。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

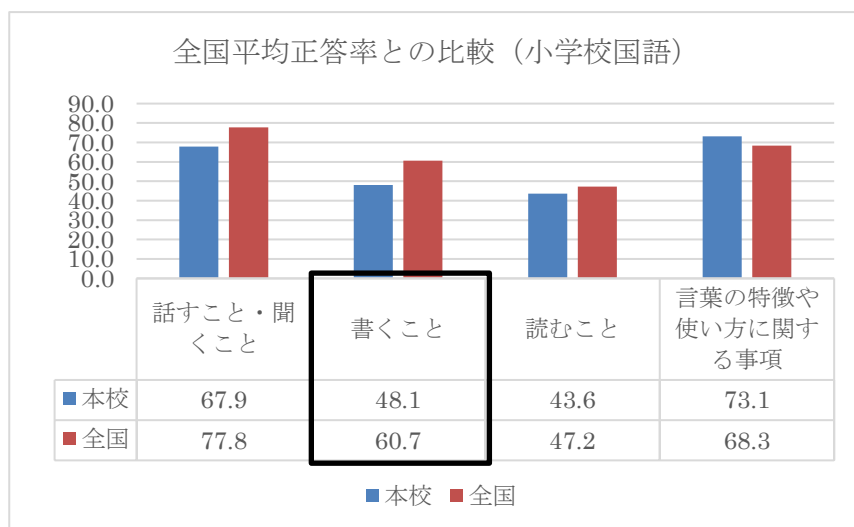
(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察



1 国語

(1) 結果

4領域のうち3領域で全国平均正答率を下回っています。特に、「書くこと」が全国平均と比較して多く差が見られます。ただし、無答率は、全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

【話す・聞くこと】

目的に応じて事実と感想、意見とを区別して話の構成を考えることに課題が見られます。自分の立場や結論などが明確になるように、話の内容を構成する経験を重ねる必要があります。

【書くこと】 文章表現力

目的に応じて、自分の考えを主張する文章を書くことに大きな課題が見られて、無答率が高いです。問

題に課せられた条件に応じて、読み手に対して理由や考えが伝わるように説得力のある文章を書く力をつける必要があります。

【読むこと】読解力

説明文や物語文から要旨となる言葉や文章を見つけて要約する問題は、全国と同様に本校でも課題となっています。また、必要な情報を見つけるために、文章と図を結び付けて読むことにも課題があります。

【言語事項】言葉の意味・漢字・ローマ字等

漢字を文の中で正しく使うことは、全国平均を上回っています。文と文との意味のつながりを考えながら主語を見つけることには課題が見られます。

(3) 国語力アップに向けた取り組みについて

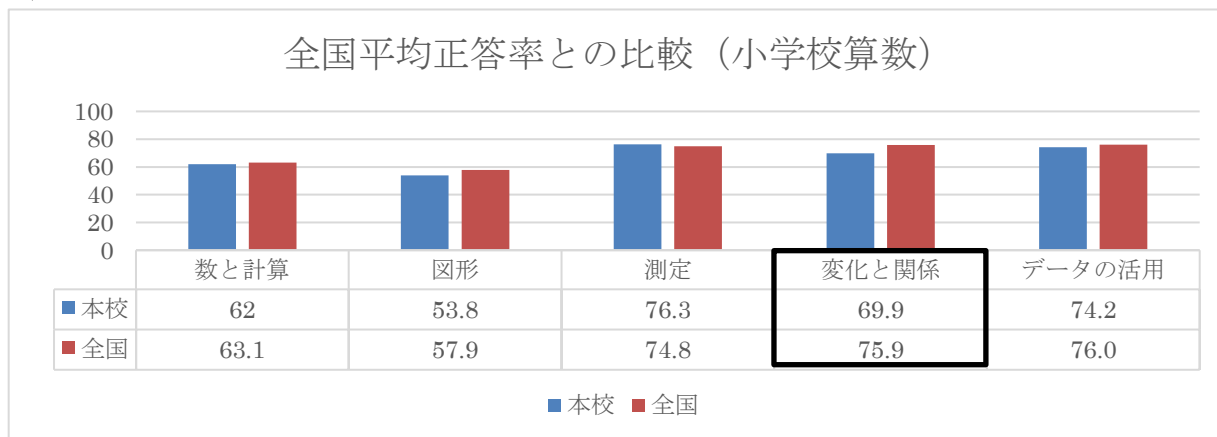
【学校の取り組み】

- 1 木曜日の朝、スキルアップタイム（10分）を使って意見文等を書く学習に取り組みます。
- 2 「書く」力をつけるために、いろいろな教科で学習のふりかえり文や新聞等を書くなどの取り組みをしています。
- 3 自分の考えを筋道立て説明できるように、いろいろな教科で説明したり、ノートに書いたりする学習活動を継続して取り組みます。

【ご家庭での取り組み】

- 1 音読を大切にしていきましょう。
美しく優れた表現のある文章を繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、まとまりを意識して読み取れるようになります。また、登場人物になりきって読んだり、感情を込めて読んだりできるよう声掛けをお願いします。
- 2 読書の推進をお願いします。
お子さんがどんな本を読書しているのか、一度見てあげてください。学校の図書館だけでなく市立県立図書館に行くなどして、お子さんの興味や関心のある事に関する本から読み始めると読書の習慣化につながります。読書の入口はどんなジャンルからでもいいですよ。

2 算数



(1) 結果

全国平均を上回った観点もありますが、特に厳しい結果だったのが「変化と関係」でした。この学習内容は、おもに割合や関数（比例、反比例、数のきまり）の学習です。

(2) 成果と課題

【数と計算】

計算能力は身につけていますが、文章問題や図などから立式し、割り算の式から何を求めているのか、理解ができていないようです。

【図形】

図形を面積の公式を用いて求める知識・技能が十分に身につけていないようです。

【測定・変化と関係】

速さの学習では、速さを求める基本問題は全国平均より高い正答率でしたが、2つの速さを比べる、時間を求めるなどの基本問題は正答率が低く、今後も基礎基本的な問題に取り組む必要があります。

【データの活用】

グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることはできますが、読み取った情報と問題を関連付けて考え判断することに困難が見られました。複数のグラフを組み合わせたリ、関連付けて考えたりするなど、目的に応じて表やグラフを活用する学習に取り組む必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校の取り組み】

- 1 火曜日の朝、スキルアップタイム（10分）を使って、計算練習や公式を使って面積などを求める基本問題に取り組み、基礎学力の定着を目指して継続して取り組みます。
- 2 授業では、「考える」「書く」「話す」を柱に児童が考えを交流し学びが深まる場を設けて、授業の改善を目指しています。
- 3 基礎学力の定着を図るために、クラスを2つに分けて学習するTT少人数学習や、単元テストでは基準点に達するまで再テストと補充学習に取り組んでいます。

【ご家庭での取り組み】

- 1 算数の基礎学力は、正確に計算できる力です。割り算の筆算や繰り下がりの引き算足し算が難しいと授業についていくことも難しくなります。計算力アップにつながるドリル問題に取り組まれることも大切です。
- 2 お子さんのノートや宿題、テスト等に目を通して、学習への励ましをお願いします。また、Eライブラリ等を活用するとお子さんの学力に応じて出題され基礎学力のアップにつながります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

【生活習慣・挑戦心・規範意識について】

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.4%	86.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	44.2%	38.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	61.5%	55.0%
自分にはよいところがあると思いますか。	53.8%	33.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	38.5%	24.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	86.5%	75.4%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.2%	84.1%

規則正しい生活習慣が送れている児童が多いことはとてもよいことだと思います。また、自分にはよいところがあるなどの自己肯定感が高いこと、将来に人の役に立ちたいという思いを持っていることは、とてもよい傾向にあると思います。

【家庭学習の様子について】

調査の項目	本校%	全国平均 %
自分で計画を立てて家で勉強をしていますか。	19.2%	31.2%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	3.8%	11.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.5%	15.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	40.4%	35.6%
「30分以上、1時間より少ない」	23.1%	24.5%
「30分より少ない」	15.4%	9.5%
「全くしない」	5.8%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	34.6%	29.8%

家庭学習については、1時間未満の児童が4割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。せっかく将来へ向けた希望があっても、学ばなければ目標にたどり着くには難しくなります。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校の取り組み】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても全学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 月曜日の朝「読書タイム」や「読み語り」を行ったり、週末課題に読書を加えたりして、読書量を増やしていきます。図書館祭りに積極的に参加させ、読書の楽しさに触れさせていきます。
- 単元テストの後、再テストを行い全員が90点以上取れるように復習にも力を入れていきます。

【ご家庭での取り組み】

- 小学校で家庭学習の習慣、座学を身につけることは、授業への集中力の向上、中学校での学力に大きく影響すると言われます。1時間座学ができれば、中学校での授業50分にも集中して取り組むことができます。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲームなどの使用時間を決めるなど**家庭でのルール作り**が学習習慣の定着にもつながります。
- 親子で読書、親子で調理など、親子での関りを増やしてください。共通体験を通じて得られる保護者の言葉は子供たちの胸に響き、これからの成長をさらに後押ししてくれます。
- 低・中・高学年ごとに家庭学習の時間や内容を示した「家庭学習の手引き」をご確認いただき、家庭学習の充実を図っていただきたいと思います。また、学期ごとに行われる「家庭学習頑張ろう週間」では、特に学習目標時間を設定しています。達成できるよう家庭でもご協力をお願いします。

【子育て一言アドバイス】宿題のさせかたについて

よく耳にするのが、「宿題をするよう声をかけるが、なかなかしようとしなない」という声です。尾木ママこと教育評論家尾木直樹さんが、「宿題は、お子さんの得意な教科からやるといいですよ」と講演でおっしゃっていましたので、参考にしてください。